

くすりと健康のはなし

薬包紙

第96回

一般社団法人岐阜県薬剤師会

職能対策委員

石原陽介



岐阜県薬剤師会では、残薬対策事業に取り組んでいます。現在も薬局などで残薬バックをお渡しし、患者さん宅に残っている薬を入れて薬局に持参していただき、お薬の整理のお手伝いをさせていただいております。残薬管理をすることは、薬の重複、誤飲などを防ぐとともに、医療費削減効果があるとの報告がされています。社会保険費の高騰が懸念される中、薬剤師の重要な職務の一つとなりました。

実際の薬とともに管理が難しいのが薬の情報です。「私の薬は20mgで、友達は5mgと言っていたけど、私の方が4倍強いってこと？」とちょっとした友人との会話でも、正しく情報が整理されていないと不安に感じることがあります。

現代ではインターネットから幅広く、多くの情報を得ることができます。以前は「週刊誌の記事は本当？」と聞かれる時がありました。週刊誌を読まれる方やその話を聞かれた方から限定的でした。

薬の情報も整理しましょう

インターネットやスマートフォンとの普及とともに、「ネットの記事にこうあったけど本当？」「自分の薬を検索したら：」と多岐にわたる質問を受けるようになりました。「インターネットで調べたら、血の流れをよくする薬を飲んでいる人は納豆を食べたらだめと書いてあったけど、納豆食べてしまった」と、正しい情報も正しく扱われないと間違った情報になってしまいます。インターネット上にかかっている内容は、専門的な内容、断片的なこと、大まかに書かれている場合など、形態はさまざまです。

正しく情報を整理することにより、自己判断による服薬の中断や無断服用を減らし、薬の重複を避けられます。また、薬の効果がそれに伴う副作用の説明を受け、治療に対する理解を深めることは、治療の向上につながります。残薬の整理とともに、整理しきれない薬の情報がありましたら、近くの薬局や、かかりつけの薬局に持っていき整理してもらいましょう。